

◇ 水 口 光 盛 君

○議長（小西秀延君） 1番、水口光盛議員、登壇を願います。

〔1番 水口光盛君登壇〕

○1番（水口光盛君） 1番、会派みらい、水口でございます。通告に従いまして質問いたします。

1、大塩町長の公約の進捗状況について。

（1）、給食費の無償化について。

①、来年度の学校給食費の無償化について、財政措置や給食の品質の確保などの課題を踏まえ、完全無償化の実現に向けてどのような検討を進めているのか、具体策を伺います。

②、財政調整基金を取崩し、給食費完全無償化を実現するなど、大胆な政策に踏み切る考えはあるか、その見解を伺います。

（2）、第6次白老町総合計画基本計画「前期総括」と公約について。

①、人口減少抑制策として、住環境の改善に取り組んでいますが、住環境の町民満足度は年々低下し、令和5年度には極端に低下しております。町営住宅や公園施設の維持管理の予算を倍増して、早急に町民の満足度を高める取組が必要と考えますが、その具体策について伺います。

②、町民の相談や苦情が多い業務の担当課（生活環境課・建設課・高齢者介護課等）の正職員の人数を増員し、関連予算だけではなくマンパワーを確保して町民満足度の改善を図る必要があると考えますが、その具体策について伺います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

〔町長 大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君） 「私の公約の進捗状況」についてのご質問であります。

1項目めの「給食費の無償化」についてであります。

1点目の「完全無償化の実現に向けた具体策」と2点目の「大胆な政策に踏み切る考え」については関連がありますので、一括してお答えいたします。

本町の学校給食費の無償化事業は、令和2年度よりリクエスト給食として10食分を実施し、今年度からは、私の公約として3学期分を実施することとしております。

来年度の学校給食費の総額は、約3,700万円と試算しておりますが、引き続き、3学期分の無償化を予定しており、事業効果等を検証しながら、取り組んでまいります。

2項目めの「第6次白老町総合計画基本計画『前期総括』と公約」についてであります。

1点目の「住環境の満足度を高める取組の具体策」についてであります。町民生活に密接に関係する町道・公園などの生活インフラや町営住宅の整備につきましては、今年度においても、町内各地区における町道補修事業や公園の遊具更新事業、町営住宅の改修事業等に取り組んでいるところであります。

公共施設を含めたインフラ整備は、本町が直面する重要な課題であることから、今後におきましても、様々な財源を活用しながら、計画的に進めてまいります。

一方、今年度6月に実施した「まちづくり町民意識調査」では、住環境における満足度が令和3年度の前回調査結果から3.0ポイント減少していることから、事業の推進にあたっては、町

民意調査に寄せられたご意見等も参考に、町民の皆様のニーズをしっかりと把握しながら、町民満足度の向上に向け、取り組んでいく考えであります。

2点目の「町民満足度改善のためのマンパワー確保の具体策」についてであります。町民サービスを向上させ町民満足度の改善を図るためには、予算とマンパワーとが連動して事業展開を図っていくことが必要であると認識しております。

一方で、12月1日現在、8人の欠員が生じているとともに、採用試験の受験者数がここ数年大幅に減少し、人員確保が計画通りに進まない状況が続いております。

このため、引き続き、社会人経験採用試験を行うほか、受験しやすい環境の整備を進めるなど、実態にあった職員数の確保に努め、効果的・効率的な行政運営を進めることで町民満足度の向上に努めていく考えであります。

○議長（小西秀延君） 1番、水口光盛議員。

〔1番 水口光盛君登壇〕

○1番（水口光盛君） 1番、水口です。1番の学校給食費の無償化について再度お伺いしますが、町長の公約の中で、子は宝、そういう公約がございます。私も同様に子は宝で、私は給食費の無償化、これを公約にしております。同じ町長の公約の中で、町長が3月に白老町長となり、約9か月がたちました。任期としましては20%たっております。一番最初に私が町長の公約として給食費の無償化3か月間やるのだということで、町長の公約を達成するのだなと思ったのです。今回答弁をお聞きすると、来年もまた3か月やるような答弁内容になっておるのですが、来年は町制施行70周年を迎える。ここで町長の子は宝という政策を実現するために、思い切った政策を私はやる必要があると思っております。それについて町長はどうお考えですか。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 水口議員から給食費の無償化ということで、子は宝ということで、まさしく私は子は宝ということで公約に掲げて、少子化対策、子育て支援策というのを掲げております。その一つとして給食費の無償化ということで、1月から3月分までの3か月間の給食費の一部無償化というようなことで予算をいただきまして、実際今年度実施するという事になっております。子は宝ということで子育て支援策というのは、過去にもお答えしているかと思うのですが、いろいろな複層的なことで子育て支援策というのはやっていかなければならないのかなと私自身は考えております。まず1弾として給食費の無償化ということで、年が明けて新しい年度を迎える際にいろいろとご家庭でお金が入り用だろうというようなことでの経済的支援を含めた中で、この1月から3月というようなことで無償化をさせていただいております。水口議員のほうから、来年は70周年だというようなことで、確におっしゃるとおり節目の年というようなことで私も捉えております。ですが、今回の答弁でお答えしているように、まずはこの3か月分の給食費の無償化が各ご家庭においてどのような効果があるかということも一つ検証を踏まえた中で、これからいろいろ多角的に子育て支援策を打ち出していきたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 1番、水口光盛議員。

〔1番 水口光盛君登壇〕

○1番（水口光盛君） 1番、水口です。町長におかれましては、先ほど言いましたように就任してから約9か月、大塩町長のカラーとしてこれはやるのだという目玉と申しますか、来年度そういう声が町民から聞こえております。大塩町長に替わって何が変わるのだ。あの町長は一体何をやるのだ。これが私が町議会議員選挙で、大塩町長と私は支持者が大体似たような方かもしれません。その支持者を回ったときに聞かれた言葉です。大塩町長には期待しているのだけれども、一向に何かやっていると見えないと。前の町長の残したことを謝ったり、訂正したり、頭を下げたり、そんなことが多いのではないかと。これは、私が町議選で回ったときに有権者から聞いたことです。

ですから、大塩町長には、先ほど言いましたように財政調整基金を取り崩してでも何か自分の公約だというものを思い切ってやっていただきたい。それが私の考えでございます。財政調整基金というものは、一概にすぐ崩せるものではないと思っています。これは、今までずっと蓄えてきた、財政危機を乗り越えるために蓄えてきたものではあります。蓄えるだけでは、町民の満足と申しますか、町民は納得しません。この蓄えたものを何に使うのだ。それには、私は先ほども言いましたように子は宝だ。未来ある子供にこのお金をどんどん投資すべき。そして、給食、子供が腹いっぱいとは言いません。親がお金を出さなくても食べられるのだ、それぐらい子に投資をすることが私は今大塩町長には必要な政策だと思っています。ですから、来年度、今の答弁で3学期分を無償化して考えていくということですが、再来年度もありますので、それを検証して再来年度、もしくは来年度補正予算でもして3か月分を6か月分にするなり、早急な対応をしていただきたいと考えているのですが、いかがですか。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） ただいま水口議員から厳しいお言葉で、大塩カラーが見えないというようなご意見も頂戴いたしました。子は宝ということで、私の重点項目の一つとして子育て支援策というようなことで事業を進めているところでございます。ただ、一方では給食費の無償化、先ほども言いましたとおり、これは一つのツールと申しますか、一つの子育て支援策ということで、子育て支援策というのはいろいろ複層的にやっていかなければならないということで、ここは自分のカラーとしては子育て支援というのは十分に力を入れていきたいと考えておりますので、給食費の無償化ということももちろん一つとして考えておりますけれども、これからいろんな方策として打ち出していければなと思っていますところでございます。

○議長（小西秀延君） 1番、水口光盛議員。

〔1番 水口光盛君登壇〕

○1番（水口光盛君） 1番、水口です。（2）番目の第6次総合計画前期総括と公約について答弁いただきました。私は、この中で町営住宅や公園施設や道路整備に関しては同僚議員が先ほども聞かれていますし、町営住宅については同僚議員がこの後一般質問がありますので、具体策については聞きません。ただし、先ほどの答弁の中で前回調査結果から3.0ポイント減少しているということがあったのですが、私が見ている資料はこちらの前期総括の中で令和2年の満足度、住環境の満足度は50.8%、令和5年に関しては38.6%、約12%ほど下がっていると思っています。私が見ている資料はこの間の全員協議会で総合計画の説明でいただいた資料を基

に今回質問させていただいたのですが、3.0ポイントと38.6%という数値、50.8%から下がっています、この辺の数値の違いについて教えてください。

○議長（小西秀延君） 増田企画財政課長。

○企画財政課長（増田宏仁君） 答弁書の中では3.0ポイントということでお答えしております。その数字の取り方です。議員の押さえている数字の取り方と私どもの数字の押さえの仕方、ちょっと確認をさせていただきたいので、後ほど改めてお答えさせていただきたいと思います。

○議長（小西秀延君） 1番、水口光盛議員。

〔1番 水口光盛君登壇〕

○1番（水口光盛君） 1番、水口です。この間の前期総括の計画書の中で極端に住環境が12.2%ほど令和2年から比べて低くなっているということで、これは公園施設、空き家対策、町営住宅の維持管理、これのポイントが大幅に減っているという意味で今回質問させていただきました。今住んでいる町民、今住んでいる方の満足度を高めなければ人口減少というのが速くなっていくと私は思っております。その辺について町長に伺います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 水口議員のおっしゃるとおりだと思います。もちろん入ってくる方々というのは受け入れなければならないのですけれども、町民意識調査の中で町民の皆さんの白老町への愛着度というのが非常に高いという傾向もありますので、ここの愛着度をしっかりと捉えた中で、転出抑制というか、そういった施策はしっかりとやっていかなければならないと考えております。

○議長（小西秀延君） 1番、水口光盛議員。

〔1番 水口光盛君登壇〕

○1番（水口光盛君） （2）の②の予算につきましては、町民満足度を高めるために必ず私は必要なものだと思います。そのほかに、先ほど答弁でいただきましたマンパワーの件です。答弁の中で12月1日現在8人の欠員が生じていると、先ほどから同僚議員が介護で人が少ないとか、どこでも人が少ない。白老町でも人が少ないのだなというのが私の感想であります。ただ、正職員が先ほど私が言った部署には、役場に問い合わせる一番多い部署はごみの関係の生活環境課、雨や雪とか、そういうことを聞くのは建設課、あと町民の半分が今65歳以上だとしたら、高齢者介護課、この3つが多分一番町民と接することが多い部署だと私は思っています。この3つの部署の担当が正職員でなければ、町民も予算がどんなについても人がきちんと対応してくれなければ満足度は増さないと私は思っているのですが、その辺はいかがお考えですか。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） その辺は、私も幾ら予算がついたとしてもそれを執行する職員がいなければ事業は進んでいかないという認識ですので、そこはしっかりと予算のバランス、人力的なバランスというのは考えていかなければならないなと考えております。さらに、町民の満足度というようなことでいきますと、これは迅速、丁寧な対応が必要だと捉えております。ただ、最近私のほうに届いているのは、例えば建設課の職員が問合せしたらすぐに来てくれて対応してくれて、本当に助かりましたというようなお話もいただいております。その裏返しは何かと

いうと、町民の皆さんが問合せした、すぐに対応した、丁寧な対応をしたということも一つの満足度といいますか、そういったことの向上につながっていると捉えておりますので、ここはしっかりと、マンパワーといいますか、そういった組織体制を構築していきたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 1番、水口光盛議員。

〔1番 水口光盛君登壇〕

○1番（水口光盛君） 1番、水口です。町長、先ほどから話しているとおり、8人の欠員が生じていると、採用試験受験数がここ数年大幅に減少する。これは、多分少子高齢化で二十歳以降、例えば22歳、この子供たちが減っているの、白老町という職場に魅力があるか、ないかということもあると思います。白老町全体の魅力なのか、白老町役場の勤務先としての魅力なのか、これは分かりません。ただ、人口減少して、こうからどんどん子供の数が減っていくと働き手もどんどん私は減っていくと思います。ですから、町長の公約の中にもあります民間委託の推進ですとか、職員でやるべきことは職員、民間は民間、そのように職員の適正な計画が必要だと思うのですが、いかがお考えですか。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 今職員の定員割れというようなことで、私もいろいろ分析して、やはり1つは町職員の魅力が薄れているのかなですとか、あと白老町役場自体に魅力を感じてもらえていないのかなですとか、これは反省点として、どんなことができるかというのはしっかりと考えていきたいと思っております。一方、そうしたらこれがすぐに職員がどんどん集まって、この先潤沢な職員体制でいけるかという、これもまた疑問符が打たれます。そういった中では、常日頃職員のみんなにはお話をしているのですけれども、現状を捉えた中で、例えばデジタル技術を使った中での業務の効率化であったりですとか、あと今水口議員からご提言のあった民間への委託の部分ですとか、そういったことをこれまた複層的にやっていかなければならないと思っておりますが、ただ1つ言えることは、行政運営の停滞だけは、町民サービスの低下があってはなりませんので、そこはしっかりと念頭に置いた中で行政運営を進めていきたいと思っております。

○議長（小西秀延君） 1番、水口光盛議員。

〔1番 水口光盛君登壇〕

○1番（水口光盛君） それでは次、2、増税されている固定資産税について。

(1)、過去の財政危機の際に、平成21年度より納税者（町民・企業・町外の所有者）に負担をお願いしている固定資産税の超過税率（1.7%）を、標準税率（1.4%）に戻すことについて。

①、過去の危機を乗り越える際に同時に行った、町長（理事者）、職員、議員の報酬削減は既に元に戻っていますが、なぜ固定資産税増税による納税者の負担だけが置き去りとなっているのか伺います。

②、令和4年度に白老町立地適正化計画が作成されたことから、固定資産税の超過税率を標準税率に戻し、都市計画税（0.3%）を新設する必要があると考えますが、見解を伺います。

③、都市計画税の新設を考えないとするならば、白老町は都市計画を廃止して、都市計画に

よらないまちづくりを選択することも、将来の人口減少に向けた選択肢の一つと考えることができますが、その見解を伺います。

④、財政危機を乗り切る財源とするための固定資産税の増税ですが、町の財政状況は改善し財政調整基金が約10億円以上となり、近年は納税者の生活費の負担が増加し、固定資産税の税率を戻すことが求められております。納税者の負担を軽減しつつ、町の財政を健全に保つことが必要と考えますが、見解を伺います。

⑤、今後も固定資産税の納税者だけに20%の増税をお願いするのであれば、町民から選挙で選ばれた町長、議員の報酬を20%削減しなければ、財政危機の際に説明し負担をお願いした固定資産税の納税者の理解がもう得られないと考えますが、見解を伺います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

〔町長 大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君） 「増税されている固定資産税」についてのご質問であります。

1項目目の「固定資産税の超過税率（1.7%）を標準税率（1.4%）に戻すこと」についてであります。

1点目の「なぜ固定資産税の納税者の負担だけが置き去りにになっているのか」についてと2点目の「固定資産税を標準税率に戻し、都市計画税を新設する考え」については関連がありますので一括してお答えいたします。

固定資産税の超過課税分につきましては、令和4年度決算において約2億7,000万円となっております。

一方、都市計画税は、道路、公園、上下水道の整備など都市計画事業を行うための目的税であり、課税対象は原則として市街化区域内の土地及び建物となっていることから、固定資産税と比べ課税区域や課税客体が限定され、税収としては少なくとも1億2,000万円以上の減収が見込まれるものであります。

これらを踏まえ、昨今の多様化する行政需要に対応する上で、安定的な自主財源の確保が必要不可欠であると捉えております。

3点目の「都市計画によらないまちづくりの見解」についてであります。現下の人口減少社会においては、市街地の集約化により、スポンジ化、スプロール化を抑制し、コンパクトなまちづくりを進めていくことが必要であります。

このことから、今後においては、より一層、都市計画に則り、秩序ある、効率的なまちづくりを目指してまいります。

4点目の「納税者の負担を軽減しつつ、町の財政を健全に保つこと」についてですが、町の財政状況は改善傾向にあるものの、健全化判断比率や基金の積立額については、道内の他の自治体と比較すると依然として低い水準にあることから、改善の余地はあるものと捉えております。

将来にわたり持続可能な行財政運営を行うためには、自主財源には確保が必要不可欠であり、今後も多様化する行政需要に対応する上でも、基金の積み増しの必要があると考えております。

5点目の「選挙で選ばれた町長、議員の報酬の削減」についてであります。私の給料額や

議員の報酬については、毎年、特別職報酬等審議会からの答申を尊重し、議会の議決を経て決定するものであります。

令和3年2月に審議会からいただいた答申では、財政健全化プランの終了に伴い新たに策定した行財政改革推進計画の実施、人口減少や税収等の減少などの課題、特別職の重責、他の同規模自治体との比較等など様々な観点から慎重な審議をいただき、「自主削減を撤廃した上で、本則の給料額を3%程度の減額が望ましい」との答申を受けたものであります。

また、議員の報酬額については、5年3月の答申で議員一人一人が担う重要な責務、地方議員の成り手不足の深刻化など、様々な観点から審議いただいた結果、「意欲ある町民が議員を目指せる環境を整備し、多様な人材を確保するため、議員活動を担っていただけるだけの報酬の増額をすべき」との答申をいただき、議会に報告させていただいているものであります。

今後も、特別職報酬等審議会の答申を尊重しながら、特別職等の報酬額を定めていく考えであります。

議長（小西秀延君） 1番、水口光盛議員。

〔1番 水口光盛君登壇〕

○1番（水口光盛君） 1番、水口です。再度お伺いします。

財政危機の際に固定資産税の納税者だけが置き去りにされておると私は思っております。町議会議員選挙で私が有権者に対して訴えたこと、そして有権者からもなぜ固定資産税の増税だけが財政危機のときに行ったことが残っているのだと、どうして町民だけ負担をしなければいけないのか。それについて役場は一切答えていないと。そういう声が上がりました。私もそれを公約に今回町議選に立候補し、650人の有権者の指示を受け、この場に立っております。この問題は、もしかすると大塩町長と私の政治家としての政策として違う点だと、唯一違う点はここだと私は思っています。これから私は約3年10か月、まだ2か月しかたっていないので、3年10か月あるとすると、これをずっと一般質問でやっていくつもりです。町長の考えが変わらない、もしくは来年、再来年に向けて財政がよくなって超過税を段階的に戻していくということを考えていただければ有権者に私は説明ができます。

職員の給料を戻す、これは私は本当に先にやるべきことだと思っていました。ただ、理事者と議員の報酬を戻したことは、私はまず先に町民といいですか、納税者、固定資産税の納税義務者の税率を戻してから理事者、そして議員の報酬を戻すべきだったと思う一人であります。その中で、もう一度お伺いします。なぜ固定資産税の納税者だけが財政危機の際に行った対策の中で残されているのか、もう一度お伺いします。

○議長（小西秀延君） 大黒副町長。

○副町長（大黒克己君） まず、財政危機の段階で固定資産税の超過課税を導入したのが平成21年でございます。この間これまでなぜ白老町が財政危機になったのかということを経験した観点から考察して、当時の議員の皆様にもしっかりと説明したところでございますけれども、町が財政危機になった要因の一つとして、自主財源の減少といいですか、その辺があるのです。他の自治体、大きな市とかと比べても白老町の自主財源が非常に少ない状況であったと。その上で、港を含めて多くの公共事業を行ってきた。それがだんだん、だんだんツケが回って借金が

膨らんだというような状況でございます。そのような財政危機を今後は絶対起こさないためには、やはり自主財源の確保というものが非常に必要なことだったということでありまして、その時期に自主財源を確保するために、ほかの自治体が導入している都市計画税と同等の0.3%上乘せする超過課税を導入したと、そのときがきっかけでございました。このような状況で現在に至っております、貴重な0.3%の超過課税分は今の町民サービスに十分活用させていただいて、なおかつ今後の将来の白老町を持続可能なものにするためにもこの財源というのは必要な財源と捉えているところでございます。

○議長（小西秀延君） 1番、水口光盛議員。

〔1番 水口光盛君登壇〕

○1番（水口光盛君） 今の答弁は、分かりますが私は納得ができないのです。財政危機の際にいろいろなメニューがありました。先ほども言いました。職員の給与を削減しました。理事者の給与も削減しました。そして、議員の報酬も削減しました。町民の方の手数料、使用料を多くしました。そして、固定資産税の増税もしました。大黒副町長の答弁ですと、たまたま固定資産税の増税がこの財政危機のときと同じになったと聞こえます。私の捉え方が違ったら間違いなのでしょうけれども、私は当時、平成21年、まだ職員でした。そのときのお話、そのときのことを思い浮かべれば、50人の職員がこの白老町を去り、まずここで50人去ったから財政危機のめどが立った一つでもあります。そして、この固定資産税の増税があったから何とかかんとか白老町は財政危機を逃れたと私は思っていました。そして、私も21年3月にこの白老町を退職しております。

その中で、先ほど大黒副町長が話しました。この固定資産税の増税というのは財政危機のメニューの一つだと私は理解しているのですが、それは私の認識の間違いでしょうか、答弁をお願いします。

○議長（小西秀延君） 大黒副町長。

○副町長（大黒克己君） メニューの一つでございます。確かに財政危機を乗り越えるために、水口議員のほうから例示のあった様々な対策を講じたのも事実でございます。その一つでございます。ただ、それが先ほども申したとおり、今後の白老町の町民の生活を豊かなものにするためにはどうしても自主財源の確保というのがやっぱり重要な観点であったと、これも事実でございますので、その考えからしてもこの超過課税というのは、今後も町民の生活を豊かにするためには町民自らがある程度税も含めた負担というものが必要だと考えてございますので、その辺は将来的にも貴重な財源であるという考えでございます。

○議長（小西秀延君） 1番、水口光盛議員。

〔1番 水口光盛君登壇〕

○1番（水口光盛君） 0.3%、これが超過税率です。これは、先ほど大黒副町長が答弁いただいた都市計画税見合いと同じなのです。でも、都市計画税というのは償却資産にはまずかからないです。これは、土地と建物、そして一番最大にかかるものは市街化区域なのです。市街化調整区域や都市計画区域外にはかからない税です。これは、登別市でも苫小牧市でも室蘭市でも都市計画税という目的税で、都市計画税として下水処理ですとか公園、そして道路、インフ

ラの整備に目的税として使っております。今後白老町は、今の下水道、公園、先ほど言った道路、これにインフラの整備にお金をかけなければ、もしかするとこのインフラが成り立たないということになります。一方、固定資産税というのは目的を持たない。普通のものに何でも使えます。例えば財政調整基金に積んで、それを病院のほうに9,000万円ぽんと入れる、これも可能です。病院に今いっている一般財源2億7,000万円、先ほど答弁にありました約2億7,000万円、同一です。令和4年度の決算を見ると約3億5,000万円黒字になっております。これは、一般会計ベースです。

そう考えると、この超過税率の0.3%は要らないのではないかという声も実はあります。貴重な財源というのは分かります。ただし、どうしても役場の会計というのは民間会社と違います。最後に黒字を残して、その半分は来年度の財政調整基金に積みたい、そして繰越しをする。普通の一般会社なら、これは税金を取られて、こんな経営はしません。それと、私がいたときには3億5,000万円も黒字になることはないですし、そんな会計はしなかったと思います。できませんでした。例えば水道会計からお金を借りたり、いろんな会計から借りたり、土地を売ったり、そんな中、白老町は今まで財政調整基金を10億円以上、これはすごいことだと思います。すごいことの裏返しは、今まで何もやってこなかった。私はそう思っています。ですから、先ほどの町民満足度の中の道路もそうでしょうし、公営住宅もそうですし、公園もそうですし、空き家対策、これの満足度が下がっているということだと考えております。

町長にお願いしたいのは、固定資産税を増税しているということをまず町民に理解していただかなければいけないと私は思っています。その説明は丁寧にして、大黒副町長が答弁いただいたとおり、目的税というか、白老町の発展に必要なだということであれば、あのとき財政危機を乗り越えるためにやったというのをもう一度方向転換して、このためにやる、このために使う、将来の白老町の発展のために使う財源に回すというような、目的税化とは言いませんけれども、固定資産税を払っている人は町民だけではないのですよ、企業、その他町外の納税者、これが払っています。納税者が一番町政にかかわらなければならないと私は思っています。納税者を無視して町政というのは成り立たない。

そう考えると、大塩町長が今回3月に町長になられ、固定資産税の問題、私は先ほど言ったように政策が全く違います。相反しています。私は、すぐ戻すべきだと思っています。令和4年度の黒字決算3億5,000万円、どう考えても民間からいったら2億7,000万円のお金は必要ないと思っています。うまく財政を乗り切ればできるのではないかということも一般の町民からも言われております。その辺について町長のご見解をお願いします。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 固定資産税の超過課税の関係です。固定資産税の超過課税については、これまでも議会の中でいろいろと議論をさせていただいております。私の考えといたしましても、この0.3%の超過課税は継続させていただくという考えをお示しさせていただいております。ただ、重要なことは、この0.3%を超過課税しているということが当たり前ではない。超過課税をいただいて町政運営をしているということは町としてしっかりと認識をしていかなければならない。今後もしていかなければならないということは念頭に置いております。これまで

の議会の中でも固定資産税の超過課税分の使途の見える化ですとか、あとは町民の皆さんの理解を得られるような運用を図るべきだというようなご意見も頂戴しております。まだまだ足りない部分ではあるのですけれども、町の予算がこのように使われているということは少なくとも町の広報紙であったりホームページで発信をして、予算の使い道というのを町民の皆さんにも発信しているところでもあります。ただ、一方ではまだまだ足りないという声もありますので、ここは引き続きしっかりと取組を進めさせていただきたいと思います。

さらには、水口議員のほうから、町民の皆さんだけではなく、企業の方々もそうなのだというようなお話もいただきました。ですから、私たちがやるべき役割としましては、白老町は0.3%の超過課税があるけれども、住んでいてよかった、事業者にとってはここで事業をやってよかったと思えるようなまちづくりを進めていかなければならないと考えているところでございます。

○議長（小西秀延君） 1番、水口光盛議員。

〔1番 水口光盛君登壇〕

○1番（水口光盛君） 1番、水口です。町長の見解は、私もそうだと思います。まず、今いる企業、そして町民、町外の皆さん、超過税率0.3%を白老町に払っていてよかった。このまちに払っていて満足する。100人が100人そうは言いませんが、でもこのまちが超過税率があることによって企業撤退。もしくは、超過税率があることによって、起業する、新しいことをやる時に20年後、償却資産、我々が民間として何かを建てる時は必ず償却資産が発生します。これは役場とはちょっと違うのでしょうけれども、償却資産、そして固定資産税を払います。20年後のことを踏まえて、人口が多分半分ぐらいになるという推計もあると思います。人口が減る、そしてこのまちで何かをやろうとしたら超過税率で税金を多く払わなければいけない。そんなふうになったら、白老町の発展は私はないと思うのです。そういうことを踏まえて、新しく来る企業にも、超過税率はあるけれども、白老町はこういういいところがあるのだよとか、来る企業にとってはメリットがあるのだよ。そして、今いる企業も撤退しないで白老町に残っていただける、そんなまちづくりをしなければこの超過税率の話は納得がいかないと思います。

町民も同じです。土地の流動化を考えれば、やはり超過税率は邪魔になっています。白老町は超過税率があって、土地の値段は安いかもしれませんが、空き家対策をするときに私は思うのです。空き家にしておいて固定資産税の土地の分を6分の1にすることもできます。これは、固定資産税で、上物が建っていれば、上物の減価償却といいますか、償却期間が終わってしまっただけで、土地の上の建物を潰さないで空き家で放置しておけば税金を払うのは減らすことができます。更地にしてしまうと約6倍払わなければいけない。これは場所によってちょっと違うでしょうけれども、そういうことがあるがゆえに空き家対策が進まない。そんなことも考えられます。

超過税率があることによってまちづくりが阻害されていることも私は町長に理解をしていただきたい。そして、住宅を建てようとしても超過税率で固定資産税が高いことによって住宅の件数が減る。そんなこともあると思います。そんなことを踏まえながら今後のまちづくり、人口減少を食い止めるためには新しい方を呼ぶ、そして家を建ててもらい、働く場所をつくる、

働く企業をつくるためにこの超過税率があだにならないように、企業から取れるところを取ってやればいいのだなんて思っていればどんどん企業は逃げます。今苫小牧市や千歳市、そして石狩市のほうに土地は高くても企業は流れていくと思います。そして、白老町の事業所を閉じると、そういう企業は我々も聞いています。はっきり町には言いません。超過税率があるので、どんなに建物を建てて投資しても税金が高いということもありますので、町長にはその認識を持っていただきたいと思います。

都市計画税の話をするれば、都市計画税は私は絶対必要だと思っています。先ほども言ったように、インフラの整備のために下水道、もしかすると今後下水道を流してもどこかで止まってしまう、そんなこともありますし、私は財政危機を招いたのははっきり言うと都市計画の失敗だと思います。下水道を市街化区域以外、本来市街化区域に引く下水道を特定環境保全公共下水道という名前で特別な地域にも引っ張ってしまった。これが私は財政危機を招いた一つの原因だと思っています。そのためにも超過税率を水道や下水道や道路、これに厚く充当しなければ、まちづくり、そして先ほどの住民満足度、住環境が落ちてしまうと思います。

町長におかれましては、そういうことを念頭にまちづくりを行っていただきたいと思いますし、都市計画税の新設について任期のあと4年、あと3年と2か月ですか、3か月ですか、ありますので、一度頭の隅にでも置いてちょっと検討をしていただきたいと思います。いかがでしょうか。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 固定資産税の超過課税、ただいまのご質問でございます。もちろん私もこの超過課税について町民の皆さんであったり事業者の皆さんがいろいろご意見を持っているということは承知しているのですけれども、今日は水口議員のほうから生の声でこういった声があるというのを聞くことができましたので、そこはしっかりと受け止めさせていただきたいと思います。

お話のあったとおり、この超過課税が本町のまちづくりの足かせ、こういったことにならないようにしっかりとまちづくりをしなければならぬというのはもちろんのことですし、先ほど大黒副町長からもお話があったのですけれども、今後持続可能なまちづくりをしていくためにはやはり自主財源の確保というのが非常に大事なことでして、今ふるさと納税でたくさんご寄付をいただいて、そしてふるさと納税を活用していろいろな事業をさせていただいておりますが、これは私の考えとしてはふるさと納税に依存して事業を展開していくことによる不安というか、ふるさと納税の不安定要素というか、そういった部分も正直あるということをしかりと念頭に置いた中では、町税、しっかりとした自主財源の確保というのも念頭に置いていかなければならぬかなと思います。

それと、都市計画税のお話がありました。これを導入するか否かというのは、これも非常に慎重に判断しなければなりませんし、やはりいろいろな議論が必要だと思っておりますので、ここは今日は水口議員からのご意見ということで承りたいと思います。

○議長（小西秀延君） 増田企画財政課長。

○企画財政課長（増田宏仁君） 大変申し訳ありません。先ほど答弁保留させていただいた関

係です。

3.0ポイントということでこちらでお答えしている部分であります。議員がおっしゃっている前期総括の中で、その満足度というのは、意識調査の中で各施策ごとに細かく聞いている部分があるのです。例えば公園や緑地、広場などが整備され、憩いの場が保全されていると感じますかというところの項目と、あと細かく各施策を聞いている部分の前段で大きいくくりで白老町は快適な住環境が整備されていると思いますかという項目も意識調査の中であるのです。今回お答えさせていただいた3.0ポイントというのは、その前段の大きいくくりのほうの満足度が3.0ポイント下がっているということで3.0ポイントということで答弁をさせていただきました。ただ、議員が通告されている中では総合計画の前期総括でということで通告をいただいていたので、答えるべき数字が3.0ポイントではなく、議員が押さえているほうの6.1ポイントそちらのほうでお答えするほうが適切かなと今思っております。今後気をつけて答弁したいと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長（小西秀延君） 以上をもって1番、水口光盛議員の一般質問を終了いたします。